

栃木県では、気候変動適応法(平成30年法律第50号)に基づき初めて公表された「気候変動影響評価報告書」をはじめとする最新の科学的知見等を踏まえ、県内の気候変動影響評価を実施しましたので、結果の概要を紹介します。



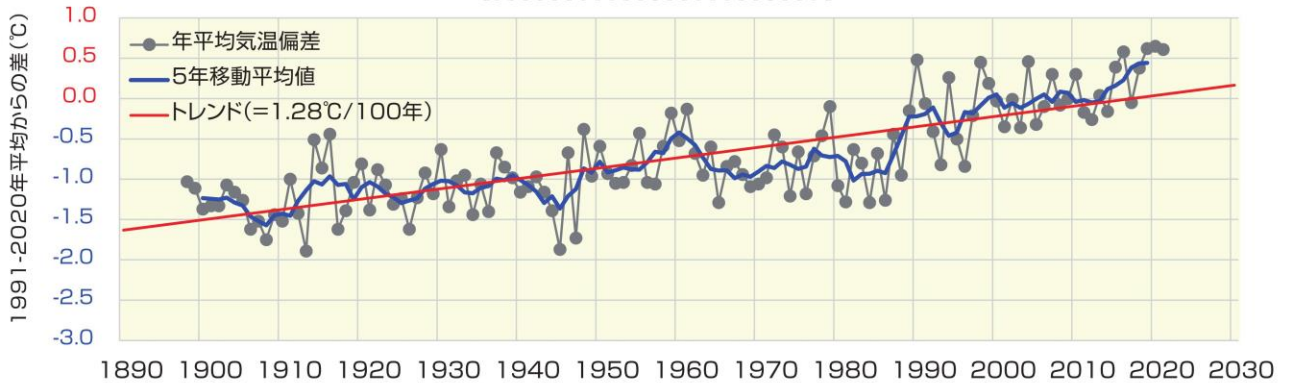
1

これまでの気候変動

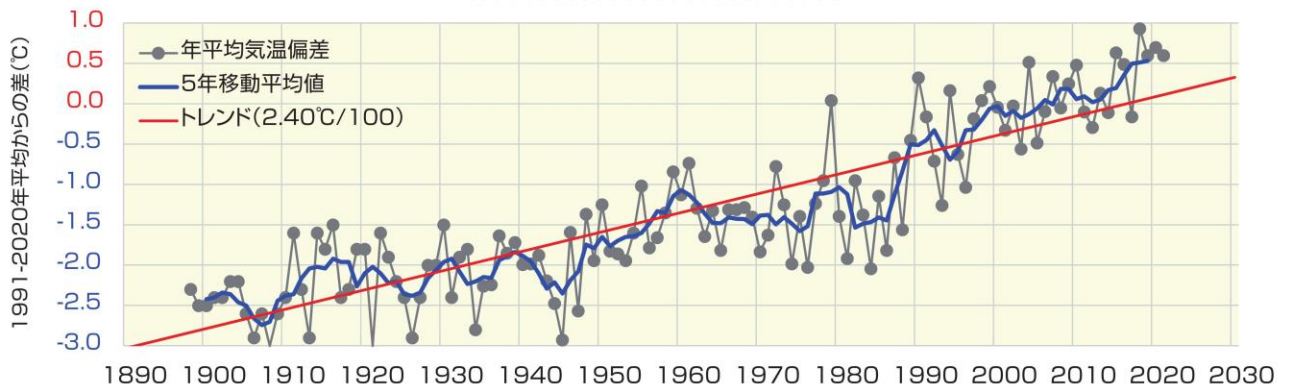


気象庁が公表する過去から現在までの気象観測データを整理すると以下のとおりです。栃木県ではすでに様々な気候の変化が確認されております。

日本の年平均気温偏差



宇都宮の年平均気温偏差



項目	1991～2020年 平年値(宇都宮)	気候変動の状況	
		日本※1	栃木県(宇都宮)※2
年平均気温	14.3℃	(100年当たり) 約 1.28℃ 上昇	(100年当たり) 約 2.40℃ 上昇
真夏日日数	49.6日	(100年当たり) 約 6.7日 増加	(80年当たり) 約 26.7日 増加
猛暑日日数	5.9日	(100年当たり) 約 1.9日 増加	(80年当たり) 約 8.9日 増加
冬日日数	72.9日	(100年当たり) 約 17.0日 減少	(80年当たり) 約 48.2日 減少
年降水量	1524.7mm	長期変化傾向は見られず	長期変化傾向は見られず

(気象庁データより栃木県作成)

※1 都市化の影響を受けていない13地点の平均値、年降水量は観測データの均質性が長期間継続している51地点の平均値

※2 都市化の局地的な気温の上昇が加わっている